

2026年5月3日（日）第1礼拝「思い煩いを主にゆだねよ」 I ペテロ5章6～9節

思い煩いとは、心配のことです。心配は私たちの霊、肉、魂に毒薬です。私たちが心配すると、体は病気になり、無気力や判断力の低下をもたらし、霊的に不信仰になります。

第一番目、主にゆだねなさい。「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」(本文7節) ゆだねるとは力強い御手の下にへりくだることです。これは謙遜な行為です。もし、私たちが自ら解決しようとするなら、心配がやって来ます。しかし、主の力強い御手にゆだねるなら、心配は消えます。全能者であり、創造主である主に信頼して「ゆだねなさい」と命令されています。主は十字架の苦しみを通して、私たちの心配や思い煩いを背負われ、いばらの冠をかぶり、その手と足に釘を打たれ、全身に傷を受けてくださいました。ですから、心配する必要はないのです。

第二番目、ゆだねる方法です。主に重荷をゆだねる方法は祈りです。祈る時、主が私たちの重荷を担ってくださいます。「…日々、私たちのために、重荷をになわれる主。私たちの救いであられる神。」(詩篇 68:19) 毎日、主に重荷をゆだねることが大切です。聖書には「あなたの心配を主に投げ捨てなさい」と五百五十回も書かれています。主にゆだねるなら、私たちの心は和らぎ、静まります。乳離れした子が母親の前にいるように、御前で祈り、主にゆだねた人には平安があります。パク・シンニョンさんはコンテストで三十二回も勝ち、六千名の前でプレゼンテーションをしました。記者がインタビューで「彼女には特別な能力がある。不安や緊張をエネルギーに変える力がある。」と言いましたが、彼女はその秘密を「それは信仰を持つ両親からの恵みです。」と答えました。幼少時から彼女が父親に悩みを相談すると、いつも「シンニョン、天を仰ぎ見よ。」と言われたそうです。詐欺に遭い、家を奪われた時も、荷物を積み、行き先が分からずに運転する彼女の父は「天を仰ぎ見よ。」と言いました。その後、不動産に行って相談するとすぐに新居が与えられたということです。この経験から彼女は主を信じるようになりました。「天を仰ぎ見る」とは、まさにゆだねることなのです。「主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」(詩篇 37:4～5)

第三番目、信仰の戦いです。サタンは吠えたける獅子のように、私たちを食い尽くそうと探し回っています。祈った後、変わらない現状を見ると心配になり、体も病んでしまいます。サタンは昼も夜も私たちを告発し、心配を入れて攻撃します。しかし、祈ったことは保証されており、「既に受けたと信じなさい」と言われています。症状(痛み)があっても、すでに癒されたと信じるのが大切です。また、罪の悔い改めをした後、赦されたと信じるのが大切です。サタンは「赦されていない」と言って疑いを入れてきますが、私たちはイエス様の血潮で打ち消すことができます。私たちの信仰の先輩たちも同じように信仰の戦いを戦い抜きました。私たちはイエス様の十字架によってアブラハムの祝福を受け継ぐ者です。ですから、私たちは堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいましょう。